

平成24年度 労働災害防止論文 金賞 私のヒヤリハット体験

札幌施設管理株式会社 森本隆之

私は、市営地下鉄にて設備保守管理を中心に様々な業務を行ってきました。その経験を振り返ってみると、仕事の中で常に意識しなければならない事は、「安全」の確保だと思います。常日頃から、安全についてのイメージは漠然とできていても、「安全」という二文字の熟語にどんな意味が正式に定義されているか調べたことではなく疑問に思い辞書で改めて引きなおしてみました。

「安全」とは、①安らかで危険のないこと
②物事が、損傷したり危害を受けたりする恐れのないこと。意味を調べ直して自分の仕事と重ね合わせて考えると、どんなに安全を意識していても、多くのお客様が利用し様々な設備がある市営地下鉄では、「絶対安全」という状況は存在しないのだという事に改めて気付きました

以前、作業の際ヒヤリとした事がありました。ある駅のお客様も通行するコンコースで脚立を利用し2名で作業を始めました。1名が脚立に上がり作業をしなければならなかったので、脚立の周囲をセーフティコーンとセーフティバーにて囲み、作業スペースを作りました。そして、その作業スペース内で私が脚立を押さえ、もう1名は脚立上で作業をしていたその時、私の横を一瞬で走り去るお客様が現れました。突然の出来事に何が起こったのかとっさには把握出来

ませんでした。そのお客様は、背後から来て高さ50cm以上もあるセーフティバーをハードルのように飛び越えながら、作業スペース内を通過して行ったのです。その時は、何事も起きませんでした。今改めて考えてみると、事故に直結しかねない危険な状況だったと思います。なぜ、このような事が起きた原因を考えてみました。

私は、セーフティコーンとセーフティバーで脚立の周囲を囲み、ここには絶対に人は入ってこない「絶対安全」ゾーンと思い込んでしまいました。ですから、脚立を押さえながら作業を見ていて作業スペース周辺の状況を把握しようという意識が無かったのだと思います。前段にも述べたように、「絶対安全」という状況は無いにも関わらず、この時の私は、安全は確保されたと思い込み作業スペース周辺の安全確認を怠ったという事が問題だったのではないのでしょうか。

どんなに安全を確保したと信じていても危険は何処に存在するかわかりません。お客様の安全を確保することが、まず私たちの仕事の基本だということを再認識し、「絶対安全」という思い込みは捨て、日々の業務に従事していきたいと思います。

平成24年度 労働災害防止論文 銀賞 労災防止対策への提言

中央ビルメンテナンス株式会社 鎌田 敬之

労災とはなぜ起こるのだろうか。労災という「起こってはならない」にも関わらず、永遠に終わらない厄介な命題を分析して考える。

労災が起こる時。その瞬間には二つの大きな要因が考えられる。一つは本人の不注意によるものである。二つ目は作業環境によるものである。この二つの角度から労災を見つめることで、労災を減らすための重要なポイントが見えてくる。

本人の不注意を軽減させるには、毎日のように安全に対する意識を注意喚起していくことが必要である。現場管理者は「人間は間違いを犯すもの」という前提のもと、作業を管理しなければならない。指導する立場にいる人間が頻繁に声掛けを行い、現場全体の安全に対する意識を高めることが肝要である。作業員を指導する際に重要なことは、労災が起こって困るのは会社だけではないということである。何よりも被害にあった本人、そしてその家族。一番痛いのは彼らなのである。そういった意識を持たせることで、作業員それぞれが他人ごとではなく、自分のこととして確実に労災という可能性を認識できるのである。また、疲労から起こる不注意も考えられるため、作業員の体調管理を確実にを行う必要がある。作業を管理する立場にいる人たちが特定の作業員に負担が増えることのないように配慮をする。作業員のコンディションは注意深く観察し、見極めなくてはならない。これは二つ目の作業環境にも密接につながっている問題で、調子が悪くても休む事が難しい職

場環境ではどうしても起こりがちである。以上のように、作業員一人ひとりの安全に対する意識を高め、会社のためそして何より自分のために作業を見つめ直す習慣をつけることが本人の不注意による労災を防ぐ鍵となる。

次に、外的要因である作業環境について考える。作業環境とは現場の構成員全員が形作るものであるが、管理者が客観的視点で現場を見つめ、その現場にどのような潜在的な危険があるのかを読み取り、未然に事故を防ぐ努力がとりわけ重要である。現場には働いている作業員から見える危険と、外側から見える危険があるため、現場管理者は作業員に対し、一日の作業で危険に感じた箇所はないか継続的に調査を行わなければならない。節電のための「使用電力の見える化」のように、労災防止のための「潜在的危険の見える化」に現場管理者が取り組むべきである。

結論として、現場管理者が取り組むべきポイントは2つある。まず、作業員の安全に対する意識を向上させる毎日の教育。そして現場を客観的に分析して潜在的危険を未然に把握し、その具体的な対策を考え、その方策を作業員に徹底させることである。人間はいつの時代も間違いを犯す。これは直視すべき現実。しかし、同時に人間はその間違いを減らす方法を考える知恵があり、決められたルールを遵守する心も持っている。私は人間の可能性を信じたい。いつの日か労災ゼロとなる時を夢見て。

平成24年度 労働災害防止論文 銅賞

笑顔・言葉の力

東京美装北海道株式会社 高田 朋典

笑顔・言葉の力は絶大である。

人と人との笑顔・言葉のやり取りが相手を変えてしまう事がある。

その力は災害防止にも活かされるかを日々考えていた。

そんな中1本の電話から出来事は始まった。

先日あるお客様より地区最大のお祭りでの警備依頼があり受注した。

お祭りといえば、多くの地域の方が楽しみに来場される場である。その中でお客様がどうすれば安全で安心して頂けるかということが無事故の課題となった。

今回の業務は、お祭りを行う会場の前の道路に車を入れないようするという内容で、商品を運ぶ方々も例外なく入れる事はない。

1台でも許すと全ての車両を通さなければならなくなるというリスクを引き起こしてしまう、更に車が通ると危険が多くなり人や物の接触事故の起きる可能性が高まるからである。

そんな中ある1台の車が近寄ってきた。

その人は納入業者の方で、『重たい物を近い距離で運びたいのに』と気持ちで来られたが、どのように気持ちよく荷物を納品してもらうかを考えた。

まず、『私がどうされましたか?』と言葉をかけると、イライラした様子で『関係者だから通るよ』と通行禁止のポールを通ろうとした。

そこで、『大変申し訳ございません。通したい気持ちは山々ですが、ご協力をしていただけ

ますでしょうか』と言葉をかけたところ、お客様が違う場所へと向かわれた。そこで最終兵器『笑顔』の登場である。去って行く業者の方に顔を合わせて、理解して頂きたいという感謝を込め『ありがとうございました』と言った。

その後、さっきは『ごめんな』と照れながら車から降りてきて言ってきたくださった。やはり怒っていると焦りや冷静な判断が出来ず事故も誘発すると思う、言い方1つでも相手の気持ちを考えトゲのない言い方をすればお互いが良い気分になれるのである。

車が入ってきて災害の起こった段階が100%だとするのなら、警備員が立っているということで抑止力となり、更に通行禁止の看板などを張る事で災害リスクを減らす事ができる。

100%のものを、限りなく0%に近づけるのがリスクアセスメントであり、先読み型の発想により事故が起きてからではなく起こす前に予防する事も大切である。

無事にイベントが終了して、お客様にありがとう、お疲れさまと言われた際には、お金では得られない喜びや満足感を感じました。

昨今車に関する事件が起きているが、悲しい思いをさせないようにしなければいけないのである。笑顔・言葉の力は一見関係ないかと思うが、しっかりと関係していた。災害防止に少しでも意識を持ちその意識が周りに広がり、大切な人や物を少しでも守る事に繋がり良い流れが循環するのである。

平成24年度 労働災害防止論文 佳作 ヒヤリハット体験と対応

北海道クリーン・システム株式会社 伊藤 一樹

平成二十二年十月に入社し、一年一ヵ月が過ぎました。今まで色々な職種の職業につきましたが、設備管理の仕事は初めてで不安もありました。この施設ボイラーは、重油や灯油で蒸気を発生させる一般的なボイラーではなく、高温、高圧の温水を熱交換し蒸気を発生させる熱交換器(以後ボイラーといわせていただきます)で、発生した蒸気をもう一度熱交換し、給湯や暖房として利用しています。仕事は、二十四時間二人体制で監視を行い湿度・温度管理、一日四回の巡回点検を行っており、各階の機械室空調設備の運転状況等が正常に運転しているかを確認しています。この仕事に就き半年くらい経った日のことです。いつものように巡回を始め、ボイラーに自動注入する薬品ポンプの動作確認を行うため、ポンプを「自動」から「手動」にして薬品が正常にボイラー内に送り込まれているかを確認する作業で、ボイラー水のPHが正常に維持され腐食やさびの原因を発生させないためには重要な作業であり巡回時には必ず点検をしなければなりません。ポンプが正常に動作しているかを確認し、次の点検箇所へ移動したとき、先輩から「何か忘れ物はないか」と言われ、考えてみましたが何も浮かびませんでした。「ポンプのスイッチを確認したか？」と言われ、ハッと気が付きました。ポンプのスイッチを「自動」に戻すのを忘れていました。先輩に「このまま長時間「手動」にしてポンプを運転すると

ボイラー内に薬品が連続して注入されるため、ボイラー水はアルカリ濃度が強くなりボイラー故障につながりかねない事態だし、この薬品は高額なのだぞ」と強く注意されました。作業後の確認を怠ったことが原因ですが、私の気持ちの中では「ちょっと忘れてただけなのに」と思う気持ちがあったのに気が付きました。先輩からは「仕事は意識を集中して一つ一つ確実に行うこと、基本をしっかり覚えること」を改めて指導されました。ボイラー担当の仕事は巡回点検や監視だけでなく、ビル全体の設備・機器類についても精通しなければなりません。しかし、毎日同じ事象が発生するわけではありません。一ヵ月に一回、一年に一回しか発生しない故障や作業もあり、数年間ここで仕事をしていても初めて対処しなければならない事象もたくさんあるため先輩たちはノートに発生した事象を記録し一つの事象に対してボイラー担当者全員が共通の認識に立つことができるようにしています。

また、過去にあった事象に対しても質問をすると指導してくれ、現場へ行って説明してくれます。私は、まだまだ経験不足ですが、後輩が入社してきた時には、私が今まで経験したヒヤリハットや先輩から教えてもらったことを後輩に伝え、自分も今以上努力して技術を習得し事故、災害防止に努めてまいります。

平成24年度 労働災害防止論文 佳作 報告・連絡・連携で事故防止

北海道クリーン・システム株式会社 小野 貴裕

私の勤める資源リサイクル工場は、操業を開始以来3年間一度も事故は起きていませんが、この間に危険が無かったという運良く事故に至らなかったのが現実です。

私は、事故のおおよそ6～8割がヒューマンエラーが原因といわれている人的原因による事故防止について考えてみました。

当社では安全対策の一貫として、各現場からヒヤリ・ハットの情報を集め事故防止のための対策につなげる取り組みをしています。

私たちの工場でも申告用紙を備えて取り組んでいるところですが、開業当時は「床に転がっていたピンを踏んで転びそうになった」「ピン・缶・ペットを分別中にピンのかけらが手のひらにチクリと感じた」など多くの申告があり、毎月の事例検討会で原因究明と対策が練られました。しかし、年を重ねる毎に申告件数は次第に減り、上司が危険行為を現認して報告書を書いているのが実態です。

私はまず、何故申告件数が減ったのかを考えました。実際の現場では以前と同じように滑って転んだり、ピンや缶を踏みつけて転びそうになったり不安定なカゴの上に乗って機械に油を差していたりしているところを目撃して「危ないな」と思ったことがあるのにもかかわらず、

当事者の本人は勿論のこと私自信も報告をしていませんでした。では何故報告がなされないのかというと、「危なかったと感じていない」「危なかったけど怪我をしなかったから」「報告したら仲間の陰口を叩くことになるから」「報告するのが面倒だから」など全員が惰性的になっているからです。問題なのは全員で取り決めた対策や、作業マニュアルが守られていないことにあります。上司に注意された後の何日間は気を付けていますが長続きはしません。

ヒヤリ・ハット事例は申告しない、決め事は守らないでは、いつ事故が起きても不思議ではありません。当社では毎月「1」の付く日を「安全の日」と定めて各現場で取り組んでいますが、当工場では作業の開始前に必ず「今日はセーフティワンデーです。気を付けましょう」と一人一人全員に声を掛けて注意喚起を呼びかけています。二十歳になったばかりの社員に声を掛けられると自分自身がみんなの模範となるよう、常に安全を意識した行動をしなければという思いにさせられます。勝負は下駄を履くまでわからないといいますが、事故は下駄を履いてもわかりません。

私は、仲間と連携を取り、安全を第一に考えて作業の効率化を図るよう努力します。

平成24年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

しないさせない手抜き作業 手順守ってゼロ災害

札幌施設管理(株) 柿崎 保

銀賞

一瞬の 油断の裏に 事故潜む

札幌施設管理(株) 喜志 一慶

自信と過信 勘違い すぐ目の前に落とし穴

日本クリーン北海道(株) 湊 秀子

銅賞

慣れたころ 遠のく初心と 増す危険 日本クリーン北海道(株)

浦田 政広

決めたこと 守るあなたが守られる 正しい手順でゼロ災害

日本クリーン北海道(株) 居鶴 昭彦

小さなヒヤリを隠すより みんなに知らせる思いやり

日本クリーン北海道(株) 佐藤 淳

佳作

「あいさつ」は安全作業の潤滑油

名寄美装工業(株) 浜上 みゆき

あいさつと 笑顔で作ろう 明るい職場

(株)ベルックス 大谷 邦雄

青信号 それでも目線は 赤信号

日本クリーン北海道(株) 佐藤 昭吉

朝の挨拶みんなの笑顔 明るい職場で無災害 (株)クリーン開発

菊池 美鈴子

焦らず 急がず 見逃さず 基本に戻って安全作業

日本クリーン北海道(株) 廣瀬 俊恵

安全は、日頃の声かけ、心がけ

東京美装北海道(株)釧路支店

芳賀 広美

安全は あるものではなく 作るもの

(株)ベルックス

高場 洋輔

安全は 一人ひとりが 責任者

(株)ベルックス

松宮 津加子

安全は 目配り気配り 思いやり

日興美装工業(株)

玉田 由亘

朝の挨拶元気よく明るい職場に事故はなし

東京美装北海道(株)網走営業所

松本 さおり

いつでも どこでも何度でも 安全確認忘れずに

日本クリーン北海道(株)

葛西 久美子

おこたるな 基本作業と正しい手順	札幌施設管理(株)	蔭川 雄二
お互いに 声かけ合って 無災害	協和総合管理(株)	大谷 章子
過去の事故 自分の身にも 置き換えて	(株)中央ビルメンテナンス	小路 恵理
確認は 頼らず任せず 手順に沿って	札幌施設管理(株)	川橋 正彦
気づいたら すぐに伝える危険予知 あなたのヒヤリが 事故防ぐ	(株)ベルックス	南部 恵理
これくらい 心のスキに ひそむ事故	北海道互光(株)	西村 正
整理整頓 身だしなみ 安全作業の第一歩	(株)ベルックス	笠羽 通聡
取り掛る 仕事の前の再確認 焦らず 慌てず 見逃さず!	東京美装北海道(株)千歳支店	澤崎 弘子
慣れが育てる危険の芽 ゆとりが育てる安全の目	日本クリーン北海道(株)	田中 明美
もう慣れた 過信に潜む 落とし穴	(株)キタデン	浦山 直樹
見慣れた目より見直す目 変えて気がつく危険の芽	協和総合管理(株)	高橋 純一郎
人に頼るな任せるな 安全は一人一人が責任者	協和総合管理(株)	古林 久子
「見過ごしません 小さな危険」ゼロ災職場の合い言葉	日本クリーン北海道(株)	酒井 和子
見たはず したはず できたはず 見込みがはずれて 事故になる	東京美装北海道(株)千歳支店	山下 敦子
目配り気配り思いやり出来るあなたに事故はなし	東京美装北海道(株)釧路支店	高澤 芳美
やったつもり したつもり つもりつもって事故となる	東京美装北海道(株)帯広支店	足立 康雄
やったはず 決めつけないで もう一度	日本クリーン北海道(株)	堀籠 美千子
わずか5分のミーティング 安全作業の第一歩	(株)クリーン開発	長谷川 勤